

修紅短期大学 同窓会報

第 22 号

発行 令和4年3月31日
編集 修紅短期大学同窓会
TEL 0191-24-2211(代)



「今年こそは」と願う

同窓会 会長
鈴木悦子

日頃より同窓会へのご支援とご協力に感謝申し上げます。
今もコロナ禍で見通せない中、息苦しい生活が続いております。同窓会の皆様におかれましては無事にこの難局を乗り切ってお過ごしでございますことを願っております。
この二年間余りは、同窓会の活動も思うように出来ず、前回予定しておりました、同窓会総会も中止せざるを得ませんでした。そのため、役員の皆様に書面議決をもって承認という形にしていたできました。今年こそ皆様とお会い出来ることを願っております。
しかし、予断を許さないコロナ禍で「交流の場」となる定期総会をどういう形で開催していくべきか、再度検討しなければならぬと考えております。

学校運営も、対面授業の努力、実習先の確保や学生募集のための高校訪問、そして、入学・卒業式の縮小等々、大変な思いをされていることに心を痛めております。
学生や、母校のために、同窓会でもどんな支援が出来るのか、皆様方のご意見をお寄せいただければと思います。
さて、短大のタッチベルクラブが、長年地域訪問で人々の心に希望の音色を灯したことが認められ、令和二年に、未来をつくる若者・オブザ・イヤー内閣府特命担当大臣表彰を受賞されました。多くの方々に勇気と希望をもたらされ、同窓会としても大変喜ばしいことと思います。
また、食物栄養学科が来年三月の卒業生が最後となり、その後は幼児教育学科のみとなることになりました。少子化のこの時代とはいえここまですわ寄せが来るとは、とても残念なお知らせとなりました。
昨年四月、新入生オリエンテーション内で、同窓会のために時間を作ってくださいました。短大と連携し初めての試みでした。同窓会の事・自分の経験・そして後輩へのエールの言葉を送らせてもら

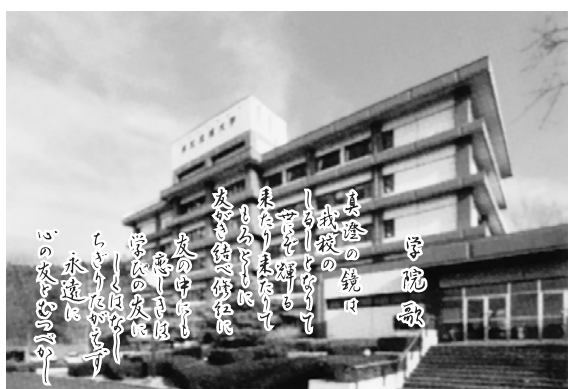
いました。学生の皆さんには、自分の夢に向って、自分の信じたスタイルで、どうか頑張ってくださいと願っています。そして、私たち同窓生も、今自分出来ることを幾つになっても未来志向な



ご挨拶

修紅短期大学 学長
千葉正

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃よりご支援・ご協力いただいておりますこと、心より感謝いたします。
本学は再来年度、開学七十周年の節目の年となります。改めて記すまでもありませんが、明治三十二年に小梨コマ先生がここの一関の地に裁縫学校を設立し、昭和二十八年に家政科単科による岩手県初の私立短期大学として開学して以来、本年度で六十八年の歳月が流れようとしています。しかしながら同時に、皆様にご報告しなくてはならないがございます。



それは伝統ある家政科の流れを組む、食物栄養学科が、設置以来十八年の幕を閉じようとしている事でございます。食物栄養学科は、岩手県南唯一の栄養士養成学科として、栄養士を多数輩出して参りました。就職状況も極めて良好で諸先輩方が各地で活躍しておりますが、昨今の少子化の波に押され、次年度の卒業生をもって終止符を打つこととなりました。これまでに多くの皆様のお支えにより地域と共に歩んで参りましたこと、ここに感謝申し上げます。次期以降は、幼児教育学科を中心に一関の高等教育機関として地域の皆様のために、これまで以上に有能な人材育成に取り組む所存でございます。
さて、少子化が直面する課題であることは明白であるものの、同様にコロナ禍による生活様式の変化も今後、注目しなければならぬ課題といえるでしょう。先ずは働き方の変化です。テレワークやオンラインでの業務など、これまでの日常に変化が生じており、皆様の中には多大な影響を受けた方も少なくないものと拝察いたします。また、外出制限も生活に大きな変化をもたらしたといえるでしょう。

気持ちを持って毎日を過ごしていきたいものです。
今はまだ、厳しい状況が続きますが、より一層のご健勝をお祈り申し上げます。

う。緩和されたとはいえ、日帰りの観光すら困難で、更に外食も注意を払わねばならない状況が続いております。
これは本学においても、キャリア観の変化として学生の就職や指向の変化に表れつつあります。大手企業や都会を志望するよりは、地元の良い企業や地域からの信頼を得ている保育現場に就職する傾向が以前より増してきております。地元の利便性や親元から通勤・通学できる安心感が、何より代えがたいものであるという認識が更に高まったといえるのではないのでしょうか。コロナ禍は我々に手痛い変化を強いてきました。しかしながら地元を顧みるきっかけになったと考え、前向きに捉え直すこともコロナ禍のもたらした影響といえるかもしれません。

第三十回 同窓会定期総会報告

- 令和二年七月十二日（日）にホテルサンルート一関（現ホテル松の薫）にて開催を予定しておりました修紅短期大学・麻生東北短期大学「第三十回定期総会」講演会、懇親会」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、会員・関係者の皆様の健康・安全面を第一に考え、中止いたしました。
第三十回同窓会定期総会の審議事項につきましては、代替措置として本会役員会において書面議決を行った結果、次の各議案が承認、可決されました。
- 1、平成三十・三十一（令和元）年度会務報告、決算報告について
 - 2、令和二・三年度事業計画、予算計画について
 - 3、令和二・三年度役員改選役員（令和二・三年度）
- 会長 鈴木悦子
副会長 寺崎敏子
監事 若生啓子
関波嘉久子
佐藤紀子
- 同窓会定期総会は二年に一度の開催です。新型コロナウイルスが一日も早く収束することを願い、次回の総会には会員の皆様と笑顔で集まりたいと思いますので、どうか御身体ご自愛ください。

次年度からは、幼児教育学科のみの募集となります。幼稚園教諭・保育士等は、子どもたちの命（人生）を預かるという責任の大きな職業ではあるものの、子どもたちとの触れ合いのなかで、子育ての喜びや、日々の成長（発育・発達）が目当たりに感じられる素敵な仕事の一つです。
お身内の方等で受験を控えているらっしゃる際には、ぜひ本学も選択肢にさせていただきたいと願っております。

最後になりますが、本学が地域における教育の要となるよう教職員一同、一丸となってこの難局に挑んで参りますので、今後とも卒業生の皆様方の変えらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。近況報告並びにご挨拶いたします。



食物栄養学科授業紹介

食物栄養学科 准教授

渡 邊 美 紀 子

私は、平成十八年度より本学に就任し、「給食管理実習」授業は、十六年間担当しております。「給食管理実習」は、基本、教員一名助手二名の体制で授業を行っており、共に教鞭をとった村元美代先生、富岡佳奈絵先生、実習全般のサポートをしてくれた、横山恵先生、佐藤佳織先生、阿部友衣子先生、菅原百合先生、阿部真弓先生、板垣千尋先生といった面々と授業を共にしました。また、給食提供の三十分前の最終チェックを行う「検食」で、鈴木愼則学科長、高橋秀子先生、牧野順四郎前学長にご協力をいただきました。

「給食管理実習」授業は、食物栄養学科二年生の前期に開講しており、給食の運営・管理能力を身につける実習で、給食施設の資源を総合的に判断し、栄養管理・衛生管理・安全管理・経済面等給食業務全般のマネジメントを学ぶ授業です。主に五月から七月の昼食時に、本学の学生や教職員を対象に、給食を提供する実習を行っています。本学の集団給食実習室に、加熱機器では回転鍋・スチームコンベクションオーブン、冷却機のブラストチラーなど、大量調理機器を備えており、学生がその資源を駆使して、最大一〇〇食の給食を提供しています。

給食のメニューは、毎回、学生が考えたオリジナルのメニューで、一定の食費と時間の制約の中、給食条件を満たすために各年度で努



(右)令和3年度食物栄養学科2年生



令和3年度 給食献立「チリコンカン」

力して企画しています。和食・洋食・中華、韓国料理・ブラジル料理、七夕などのイベント献立など様々なメニューで、十六年間で一〇五献立、提供総数は一一、三〇一食にのびります。

令和三年度で食物栄養学科は二十年目となりますが、令和三年度より、学生の募集がなくなっており、令和四年度は二年生みの授業となります。「給食管理実習」授業も令和四年度で最後になりますが、次年度も、学生が少しでも充実した学びができるよう、また、事故の無きように教員一同で頑張ります。食物栄養学科の同窓会の皆様、是非、学校に遊びにいらしてください。



地域を経営する

幼児教育学科 講師

館 山 壮 一

同窓会の皆様初めまして、幼児教育学科で社会福祉系の教員を務めさせていただいております館山壮一と申します。一関にまいり、今年で五年目を迎えることが出来ました。これもひとえに、同窓会の皆様の多大なご支援のお陰であり、感謝申し上げますと共に、このような場で筆を取らせていただくことを光栄に思う所存でございます。

さてわたくし、生まれは青森市でございますが、ここ数年の一関は大雪で、凍つく日も目立ち、まるで故郷にいるかのような感覚で過ごしております。安穩としていられたのは二年もなく本州最北端から、はるかに南の穏やかな地域に来て、まさかこれだけ凍えることになるうとは思いませんでした。異常気象が地域の違いなど吹き飛ばしてしまったのでしょうか。

ところで地域と申しますと、それぞれの地域には、それぞれ多様で面白い文化が存在しているものでございます。一関であれば、例えば四〇〇年以上も続く餅文化、それから伊達藩の外戚としての田村家の気風など、地域の気候や歴史、土地柄を生かした文化・作物がその地域の彩りを決めてまいります。これは合併前の旧町村にも当然に言えることで、それぞれの文化を生かした地域づくりが、多様で深い歴史を生み、今現在の我々を形成しているのです。しかしな

がら昨今の少子高齢化により地域の担い手が減少し、伝統芸能が途絶え、地域生活もままならなくなることが、現に起こりつつあります。こういった課題に対処しようというものが、地域を経営するという考え方です。誇れる資源、使える人材を活用し、地域の人口減少の影響を限りなく抑え、住みやすく魅力ある地域づくりをして移住者の増加を狙うものです。その過程で戦略思考が求められます。経営戦略の思想を地域に移し替え、地域全体の目指すべき方向を定め目標に向かっての行動を整える事が求められるでしょう。戦略に不可欠な要素は理想(目標)です。将来地域がどのような姿になるべきか、それぞれの理想を語り、全員で行動を正していくことです。これは学校生活も同じです。資格取得へ向けて、どうなっていたいか、それぞれの理想を思い描き、行動することで理想に近づけるのです。授業も同様です。いかに学生の興味を惹けるか、ためになるか、学校生活を安全に楽しんでもらえるか、頑張る学生たちの後押しが少しでも出来たらという思いで、我々教員も日々授業内容を刷新し、変革にチャレンジしております。

まだ五年にも満たない若輩者でございますが、どうか温かいまなざしでご支援いただければと願っております。

家政科・家政学科・生活科学科・生活文化学科・食物栄養学科の歩み

食物栄養学科 教授 高 橋 秀 子

現在の修紅短期大学に残されている様々な資料から卒業生の皆様の当時の活躍を紹介し、本学家政科からの歴史を遡ってみます。

1 文集「紫苑」より

紫苑の第1号発行は1953(昭和28)年と思われます。思われると表現したのは第1号が学内には現存しておらず、本学が所有しているのは第2号(1955(昭和30)年5月発行)からです。ガリ版刷りであった第2号から広野周治郎先生の寄稿文を以下に紹介し、本学の曙を改めて知ることとします。

学園を巣立つみなさんへ

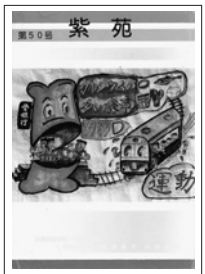
小梨理事長、学長御夫妻が文部省の帰り、突然仙台に下車せられて、私の宅に御立ち寄りになったのは昭和二十七年晩秋のある朝であった。かなり御疲労の色が濃かったようであったが修紅短大設置計画についての経緯を一気に物語られ、教授組織について東北大学当局との折衝を私に一任されたのであった。

教育施設の面、予算の面、職員組織の面、幾多の難問題が解決されていなかったので、私は年度内の設置認可が相当むずかしいものだとき思った。然し、御夫妻の熱意と誠意で不可能を可能にするが如く着々ことが進められて、遂にその実を結ばれるに至った。

そして、遂に第1回の卒業生を世に送り出すことになったのである。落成式のあの輝かしい、感激にもまして、私には感無量のものがある。(以下略)

広野周治郎

文集「紫苑」は毎年発行を重ねておりましたが、2011(平成23)年3月の第57号を最後とし現在は残念ながら発行されていません。ここに第50号(2004(平成16)年3月発行)の表紙を掲げ紹介とします。



文庫「紫苑」

2 卒業アルバムより

卒業アルバムは1965(昭和40)年度から発行されています。当初は写真を貼って作製し、1967(昭和41)年度版から印刷所製本となっています。卒業アルバムは2021(令和3)年度版も発行され、これまでの学生のそれぞれの2年間を写し続けています。1966(昭和41)年度版の表紙紙にある旧校舎を紹介することとします。



校 舎 (昭和33年)

3 大学祭より

修紅短期大学創立15周年を記念して第1回大学祭が1968(昭和43)年11月に開催されました。その後、学生会によって開催されてきています。ここ2年間は、学内関係者の参加開催になっていますが、学生は思い思いに楽しんでいます。1990(平成2)年のパンフレットの表紙とその当時の5つのクラブ発表の部分を紹介します。写真は1988(昭和63)年の大学祭のものです。活発な活動が展開されていたことがわかります。

同窓生だより

同窓会会報に寄せて

(平成10年3月)
幼児教育学科卒業
千葉 美樹子



私が、麻生短大を卒業してから二十年以上が経ちました。時の速さは、年々スピードを増し過ぎていくように感じます。その間に、麻生短大から修紅短大へと名前は変わりましたが、勤務先に毎年学生が実習に来る関係で、学び舎を訪れることはなくとも母校を身近に感じておりました。

この度、会報誌への原稿依頼を受け、二十数年前を懐かし思い出す機会となりました。恥ずかしながら、真面目な学生とは言い難かった私は、いつも目立たぬように授業をひっそりと受けていたことを思い出します。幼児教育とはまた違った社会福祉の分野に就職しましたが、仕事についてから、日々の授業で学んだことが何度となく思い出され、学生時代に再び学びたいと思ったのは、一度や二度ではありませんでした。そして、やはり外せないのは「ファンタジックコンサート」です。合奏・合唱・編曲・演出・オペレッタ・園児への対応等々…。様々な役割を持ち、一つのものを作り上げていく過程は、学生時代の思い出に留まらず、子どもを相

手に仕事をする私たちに必要なことを学ばせてくれたのだと実感しています。

私は、短大を卒業してから児童養護施設で二十数年働いています。児童養護施設は、二十四時間三六五日子どもたちに寄りそう場です。体力的にも精神的にも、決して楽な仕事ではありません。二十年以上も続けられていることに、自分自身でも驚くことがあります。勤め始めてからは、子どもが犠牲になるニュースを見るたびに園の子どもたちのことを想い、自分の身に新しい命が生まれるたびに園の子どものことを想い、心がぎゅっと掴まれます。「命」に携わる、そんな仕事なのだと思ひ引き締まる思いです。

人のために何かが出来ること、それを苦と思わずに甲斐と出来ることが、この仕事にとって大切なことだと、私は思います。

私の職場には、多くの同窓生が一緒に働いています。同じ学び舎で学んだ先輩・後輩が、同じ志で子どもと向き合いながら働いていることに嬉しさが湧いてきます。子どもに携わる者としての礎を築くことが出来た学生時代にも感謝です。

(児童養護施設勤務)

経験知の宝もの

(昭和33年3月)
家政科卒業
船山 タツ子



新型コロナウィルス感染拡大の脅威の中自粛生活を余儀なくされておりますが、同窓生の皆様にはお変わりございませんでしょうか。

同窓会報の原稿依頼がありましたが、思うがままに書かせていただくことにします。

修紅短期大学は、昭和二十八年「家政科」一学科が設置され四年後は「保育科」が増設されました。当時岩手県では初めての短期大学誕生でした。

初代学長の小梨良先生が「女性には高等教育が必要」との熱い思いから創立されたと伺っております。

私が入学したのは、とおい昔の事になります。あれから何年たつのか？すぐに数字が出てこないの、電卓を頼り計算することに。なんと六十六年前の四回生だったんです。

ちょっと振り返ってみますと、入学時に一番驚いたのは、入学式は体育館で行われたのですが床のない(土間)であったこと。今では考えられないです。歴史を感じます。

しかし、学習においては常勤教



授の他に非常勤講師として複数の東北大学教授の講義も受ける事ができ大変充実しておりました。特に、二年間の学生生活と寮生活を経験したのは良い人生経験だったと今では楽しい思い出となっております。

卒業後、修紅高校で二十五年間教師として勤務し、退職後は一関市内六つの高校の非常勤講師として十九年間貴重な体験をさせていただきました。この間主任児童委員や社会教育委員、その他いろいろな役員に携わり教員生活とは異なる体験ができた事は自分にとって貴重な体験でした。

その後六十四歳にして公民館長、少し間を置いて行政区長などを経験し、全く未知の世界で仕事が出来たこと等々は、私の人生にとって正に「経験知の宝もの」となっております。

もう一つは、趣味で始めたウォーキングです。日本国内の諸々の大会に参加しているうちに、指導員資格取得に興味を持ち健康ウォーキング指導士の資格を得、それによって方々の地域からお声を頂き約二十一年間一緒に楽しめたことが今の健康維持に繋がっていると感謝しているところであります。

最後になりましたが、不詳私と同窓会長に推薦頂き平成十二年から八年間、恩師はもろろんのこと同窓生の皆様に多大なご協力を頂き楽しく過ごさせていだいた事に心より感謝申し上げます。また当時リニューアルした同窓会報が今も続いて発行されている編集委員の皆様にも心より御礼申し上げます。

まだまだ新型コロナウイルスが収束の気配もないようですので、互いにマスク着用を忘れず健康維持に努めましょう。

1990 (平2) 年のパンフレットの「クラブ発表」から

○能楽研究部 《体育館》
4年目を迎えた能楽研究部では、8月29日に中尊寺能楽殿で初舞台を踏ませいた。だき、部員一同感動と意欲に燃えています。まだまだ、未熟ではございますが大学祭では舞台発表をさせていただきます。どうぞご覧ください。

○書道部 《301》
今年も小島先生の御指導の下毎週練習に励んでまいりました。ただ字を書くのではなく、精神力も鍛えながら練習してきた成果をご覧ください。

○手芸部 《トレーニングルーム》
私たちのクラブは今年から部と認められました。部員数は9名と多いとはいませんが、一人一人の個性の光るクラブです。大学祭の展示としては、七宝焼き、ろうけつ染めなどを製作しました。なお、ハンカチの即売もいたします。

○茶道部 《学生ホール》
私たちはお稽古を積み重ね、茶道の真の姿をつかもうと努力してまいりました。未熟な手前ではございますが、今年は平手前をさせていただきます。皆様、お誘い合わせの上お越しくださいませ。

○華道部 《301》
植物は、古来から人間の生活に深い関わりをもっていました。また生け花は、本来個性豊かな創作の世界を作り上げた芸術といえるでしょう。もし、皆様が生け花と語り合うことができたなら、それはとても素晴らしいことです。私たちの生けた花をご覧になり、少しでも生け花に関心をもっていただけたらと存じます。

麻生東北短期大学
大学祭
未知への挑戦
Let's go for tomorrow.
10月27日(土) 28日(日)
AM 9:00 ~ PM 4:00

1988(昭63)年 茶道部の大学祭の茶会

1988(昭63)年 大学祭の書道部と華道部の展示

4 食物栄養学科の様子

食物栄養学科の様子を紹介します。立派な栄養士を目指して、講義と実験実習の学び、研究に励んでいます。また、地域の皆様と多くの連携事業が展開されてきていました。一部ですが紹介します。

5 まとめ

私たちの学科に学び、今社会で活躍している卒業生の皆様と地域社会の皆様、多くのご支援をいただきお礼を申し上げます。食物栄養学科を継続させることができなかったこと返すがえすも残念です。卒業生をはじめすべての皆様の益々の御活躍を祈念します。

2004 (平16) 年 市内菓子業者様と共同開発の菓子「修紅い芋ん！」

2017 (平29) 年 市内総合食品会社様と共同開発の弁当「さっぱり! アップル生姜焼きDON」



令和 3 年度 箸持ちコンテスト



令和 3 年度 幼児教育学科『子どもの食と栄養』様子



修紅短期大学附属
認定こども園
新しい動物がやってきました
「羊の姉妹“さつき”と“めい”」



令和 3 年度
株式会社 松栄堂と共同制作
「桑の葉 poundcake と
りんごカスタード大福」



令和 3 年度「第 4 回ファンタジックフェスティバル」無観客開催

タッチベルクラブ活動報告

令和三年三月 幼児教育学科卒業 遠藤 龍一

この度、私達タッチベルクラブは二〇二〇年度「未来をつくる若者オブ・ザ・イヤー」の内閣府特命担当大臣表彰を受賞いたしました。顧問鈴木美樹子教授と共に内閣府庁舎にて内閣府特命担当大臣より表彰を賜りました。この表彰に至るまでに、先輩方の被災地支援活動を初めとした延べ一五〇か所でのコンサートは、地域の子供たちの音楽の関心を高めるとともに地域と大学をつなぐ架け橋にもなっています。

この活動を続けられたのは、訪問した先で出会った同窓生の皆様の応援、同窓会を通しての皆様からのご支援があったことだと思っております。同窓生の皆様による多大なるご支援に心より感謝申し上げます。



女子バレーボール部活動報告 (令和3年度)

東北バレーボール大学春季1部リーグ戦 7位

2部降格

岩手県民体育大会成年女子6人制の部

(優勝・優秀選手：松倉有亜・王 凜華)

東北バレーボール大学

学秋季

2部北リーグ戦

(優勝)

2部南・北リーグ決

定戦

(対 南リーグ1位

山形大学3:0)

1部・2部入れ替え

戦敗退

(対 仙台大学

0:3)

2部北リーグ残留



※新型コロナウイルス感染症の影響により、他の大会はすべて中止となった。

おめでとうございます

恩師並びに本会副会長が永年の功績が讃えられ受賞されましたのでお知らせいたします。

一関市二〇二〇年度市勢

功労者【教育文化功労】

恩師 修紅短期大学名誉教授

小 梨 浩 子 様

平泉町二〇二〇年度町勢

功労者【地方自治功労】

同窓会副会長

寺 崎 敏 子 様

本会として、花束を贈らせていただきました。



■ 討 報 ■

修紅短期大学 (麻生東北短期大学) の発展にご尽力された先生方の訃報をお知らせ致します。ご生前の御恩に心より感謝申し上げ、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

修紅短期大学名誉教授

中 川 貞 志 郎 先生

修紅短期大学名誉教授

鈴 木 ヒ ロ 子 先生

元修紅短期大学准教授

平 山 美 枝 子 先生

事務局だより

●別紙に記載の各学年委員は、卒業時に選出された方で同窓会からのお知らせを伝えたり、取りまとめ等のお世話をいただく方々です。

●今年は隔年で開催している同窓会定期総会があります。

(別紙参照) 多くの会員皆様の参加をお待ちしております。

●住所が変更になった方、お名前が変わった方などは事務局へ連絡願います。(個人情報保護は、会報発送にのみ使用します。)

編集後記

同窓会報第二十二号をお届けいたします。

同窓生の皆様「お元気ですか?」と字のポイントを大きくして、いや、声を大きくして発したいです。しかし、それをするのもかえって制限されるこの「コロナ禍」。このような状態が二年以上も続いています。早期の終息を祈っておりますが、皆様と交流できる同窓会総会の中止、をはじめとした様々なことが、心ならず疎遠となっております。そのようなところに、事務局から同窓会会報の発行決定のお知らせ。うれしかったです。皆様も同じではないでしょうか。

今号の同窓会報もより多くの紙面を、母校の近況や学生の学園生活の姿、社会の中で積極的に活動なさっている同窓生の皆さんの様子、恩師先生方からの心温まる寄稿など多くの情報を掲載するように努めました。このような時であるからこそ、情報の提供・発信はうれしいものです。心が温まる想いがします。また、歴史ある「食物栄養学科」が閉じられるとのこと、誌面作りの中で知りました。感慨深い思いと共に、大学や同窓生の皆様の「今」をお知らせするために、会報の定期発行を継続しなければ、改めて感じているところなんです。

最後になりましたが、さらなる紙面の充実を、編集員一同目指していきたいと考えております。同窓生の皆様からのご意見、ご感想、ご寄稿などをお寄せいただければ幸いです。